

21

与ふ

← ※たてまつる「奉る」(ラ四)  
まゐらす「参らす」  
(サ下二)

補本

差し上げる・献上する  
く申し上げる・く差し上げ  
る・おくする

22

受く・もらふ(与ふ)

← たまはる「賜る・給る」  
(ラ四)

補本

お与えになる・くださる  
くくださる

補本

〈謙讓〉  
いただく・頂戴する  
くいただく

〈尊敬〉…中世(鎌倉)以降、尊敬  
の「たまふ〔給ふ〕」と混合  
される。

23

受く・聞く

← うけたまはる「承る」(ラ四)

お受けする・お聞きする

24

仕<sup>つか</sup>ふ／す(代動詞)

← つかうまつる「仕うまつる」  
つかまつる「仕る」(ラ四)

本

お仕え申し上げる／し申し上げ  
げる・いたす

補

く申し上げる

※和歌の前後にある「つかうまつ  
る」は「詠む」の代動詞で、謙讓  
語。

(和歌を)詠みます・詠み申し上げ  
る

②5

あり・居る(居り)

← 侍り(ラ変)  
候ふ(ハ四)

(エライ人のお側に)お仕えする・伺候する・お控えする  
さぶらふⅡうかがうの意味もある

※「侍り・候ふ」の上に動作対象(エライ人のお側・エライ人の所など)があったり、または動作対象意識が強い(動作対象が補える)ときの「侍り・候ふ」は謙讓語。

尊敬語【四段活用】

は・ひ・ふ・ふ・へ・へ

**本** お与えになる・くださる

**補** おくになる・おくなさる

謙讓語【下二段活用】

へ・へ・〇・ふる・ふれ・〇

**補** します・(さ)せていただく

※①会話・手紙にしが使われない

②「思ひ(思う)・見・聞き・知り」の下につく

③謙讓語だが、敬意の対象はその話を聞いている人! ↓機能は丁寧語

②6

※たまふ「給ふ」(ハ下二)

# 丁寧語

丁寧語は次の二語だけ！

②

あり・居る(居り)



侍り(中古)

候ふ(中世)

**本**

あります・おります・ございま

**補**

す  
す  
す  
す  
す  
す  
す  
す  
す  
す

※①「侍り・候ふ」は、もともと「お仕えする」という謙讓語。動作対象(人物に)が薄れ、ただ単に存在を表す丁寧語としての用法が生じた。

②「候ふ」の丁寧語としての用例は平安中期くらいから見られ、平安末期の作品(大鏡など)には「侍り・候ふ」両方とも丁寧語として出てくる場合がある。

③「侍り・候ふ」の上に動作対象(人物に)があったり、補えたりするときの「侍り・候ふ」は謙讓語。

④補助動詞の「侍り・候ふ」は丁寧語。